

年 組 名前:

問1

山梨県は、2023年度の

獣害による農作物被害額を

発表しました。

次の野生鳥獣別の被害額を

教えてください。

- ・サル:
- ・イノシシ:
- ・シカ:
- ・鳥類:
- ・その他:

問2

県は、被害減少に向け、

どのような対策を

行いましたか。

-
-

問3

10月には、なにをテーマとした研修会を開きましたか。

.....

農作物の鳥獣被害微減

23年度、総額1億3900万円

年度	被害額 (億円)
2015年度	1.90
16年度	1.85
17年度	1.80
18年度	1.70
19年度	1.60
20年度	1.50
21年度	1.45
22年度	2.12
23年度	1.39

県がまとめた2023年度の鳥獣による農作物被害額は22年度より100万円(0.7%)少ない1億3900万円だった。2年ぶりに前年度を下回ったが、減少幅は小さかった。県担当者は「効果的な対策を市町村で共有し、さらなる被害の減少につなげていきたい」としている。

県農業技術課によると、被害報告などを取りまとめた。23年度は市町村やJAからの報告数は22年度に比べて3割(2.3%)少ない125件、被害額は7割(1.3%)減の537万だった。被害額のうち、獣害の最多はサルで22年度と同じ3500万円。イノシシとシカも22年度と変わらず、それぞれ3400万円、3200万円だった。ハクビシンやネズミなど「その他」が22年度と同じ1300万円。カラスやムクドリなど鳥類被害は唯一減少し、100万円(3.8%)少ない2500万円だった。

近年は12年度の2億1200万円をピークに減少傾向が続き、21年度まで9年連続で減っていた。ただ、22年度は21年度より3千万円多い1億4千万円で増加に転じ、23年度は減少したもののほぼ横ばいだった。

県では被害減少に向け、山際のフェンス設置やシカの管理捕獲を実施。県や市町村、JAの担当者による研修会も開き、有効な対策の検討を進めている。今年10月には、小菅村が地元住民と連携して運営しているサルの捕獲用のわなをテーマに研修会を開き、効果や課題を共有した。

県農業技術課の担当者は「対策を少しでも緩めれば被害は増えるので、継続的に地域全体で対策をする必要がある」と強調。市町村ごとに農作物や農地の立地環境などが異なることを踏まえ、「それぞれの状況に応じて最適な方法の県全体への展開を後押ししたい」と話している。

〈雨宮文貴〉

(2024年11月27日付 山梨日日新聞 18面)